

ほしい情報届いていますかー広報紙は毎月1日・15日に発行

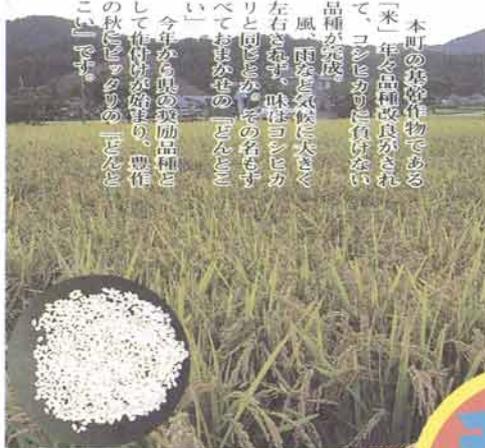
衆議院議員総選挙の投票日は10月20日(日)

衆議院議員総選挙は、公職選挙法改正後、初めての小選挙区比例代表並立制として執行され

ます。本町は、小選挙区の区割りに伴って五区に編入され、新たに三田市や但馬・丹波地区と

同一の選挙区となっています。投票は、小選挙区選挙、比例代表選挙、最高裁判所裁判官国民

民審査の三回投票することになります。当日は必ず投票しましょう。

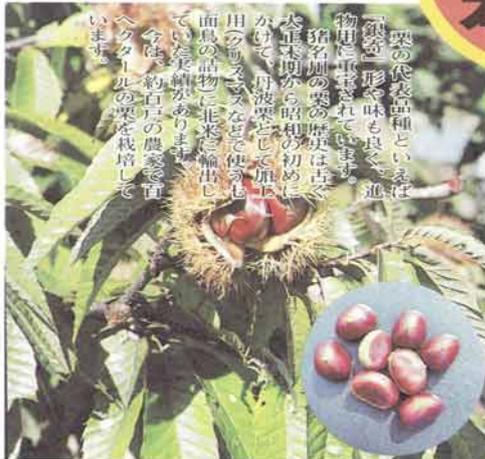


本町の基幹作物である「米」近年品種改良がされて、コシヒカリに負けない品種が完成。
風・雨など気候が大きく左右する。味はコシヒカリと同じだが、その名もすべておまかせの「どんどこい」
今年から県の奨励品種として作付けが始まり、豊作の秋にヒマツタリ「どんどこい」です。



マツタケの採り方は大昔「A」猪名川にまつたけは、町北部の山中で撮影した最高級品です。山主によると年々品質が悪くなっているそうです。
気になる価格は、豊作とはいえずまだまだ高値の花です。
今回紹介するこのマツタケは、町北部の山中で撮影した最高級品です。山主によると年々品質が悪くなっているそうです。

秋本番



栗の代表品種といえる「銀葉」形も良し、進物用に重宝されています。猪名川の栗の歴史は古く、大正末期から昭和の初めにかけて、丹波栗として加用や、アラスカなどへ輸出していた実績があります。今庄、約百戸の農家が、向へクターの栗を栽培しています。



初秋を彩る花といえる、ヨモギ、彼岸花（ユズリハ）から十月にかけて水田の畦道に見かけた「ヨモギ」花。秋桜といわれる可憐な花びらのヨモギ。
本町人の町に初めて開通する猪名川町の中心のまう自然の情景が多々残されています。

猪名川高校や小中学校で授業体験

九月二十九日から十月四日まで姉妹都市提携しているオーストラリア・バララット市のマウントクリア高校の生徒十五人と先生など五人の計、五人が来町し、猪名川高校や小中学校の児童・生徒たちと深い交流をしました。
十月一日には、猪名川高校の芸術の時間に三班に分かれ、それぞれ書道、音楽、美術を同校の生徒たちと一緒に楽しみました。
書道を体験したタラス・クラークさん（十六歳）は「初めて書道を体験しました。少し難しいけれど楽しい」と話していました。



パソコンで紙面作り

今月号から「広報いながわ」の紙面作りの大部分をパソコンで処理します。導入したパソコンは2台で、紙面レイアウトや組み替えなど、今まで手作業で行っていたものを全て処理します。
このシステムはDTPシステムと言い、導入に伴って今後5年間で約2割の経費節減になる予定です。



慣れない手つきの書道、でも良い思い出

第29回 いながわまつり

第二十九回いながわまつりを総合公園、文化体育館と生涯学習センターで開催します。(雨天決行)

各種文化団体の発表や諸団体による活動発表、パネル展示、フリーマーケット、チャリティバザーなど盛大に開催します。今回のいながわまつりはO（オー）157感寒を未然に防ぐため、例年出展されていた各種模擬店は自粛していますので、来場者は弁当を持参ください。

臨時駐車場は台数に限りがありますので、来場者は会場への専用バスを利用ください。

会場への専用バスルートは次のとおりです。
★日生・伏見池公園から会場へ
★杉生方面から会場へ
★差組・つつじが丘から会場へ
詳しくは、同まつり実行委員会事務局（町長公室 六六・八七七）社会教育課（六六・六〇〇）へ。

11月3日総合公園、生涯学習センターなどで開催



昨年のいながわまつりから

実りの秋です

実りの秋です。猪名川町でも収穫の時期となり、栗やマツタケ、さつまいもなど今年も豊作の年となりました。

その中でお米は私たちにとって一番大切な作物で、作付面積は、日本の農作物の中では一番多い量です。私たち特派員2人は今回、お米が出荷されるまでを実際にやってみようとして稲刈り体験をし、JA猪名川のライスセンターを訪ねてみました。



たわわに実った稲穂を手に稲刈り体験

現在農家では「春に荒起こし」といって、水田の土壌を細かく耕し、水を引き、土をならします。五月末から六月初めには、田植えをします。昔は苗代作りを各農家でしていましたが、現在では一括してライスセンターでしています。

「米」とは「八十八」と書き、その栽培は荒起こしから収穫まで八十八回手間をかけるといわれるほど大変です。最近では機械化されて八十八もの作業はないとはいえず、米作りは天候や土質、手間のかけ方で出来不出来が決まっています。

米づくりと農家の仕事

田植えのあと、稲が水を必要とする時期とそうでない時期があるので、水の管理をしたり、除草、害虫や病気を防ぐ作業もします。秋になると、台風や秋の長雨など天候に左右されながら、穂の実り具合をみて、九月末から十月初めにかけて稲刈りをします。今では、一人でコンバインという農機具を使って十アールを、時間で脱穀までこなしてしまいます。昔は、家族総出で、一日かかって刈り、天日干しまでしかできなかったとか。脱穀した米はライスセンターまで運んで玄米にします。



小路正和さん(北田原)に指導してもらい、生まれて初めてのコンバイン体験。まるで大きなゴキカートに乗っているようでした。

稲刈り体験 深紅の彼岸花の咲く水田の畦道を稲刈りスタイルで、いざ出陣。初めて体験する稲刈りに身も心もワクワクさせながら目指すは、黄金に実った「どんとこい」の水

いながわ特派員 とびつきり 報告

ライスセンターを訪ねて

田です。さっそく、稲刈り用の、のこぎり鎌を持ち、手ほぎをしていただきました。一株サク、三株サクサクと刈りました。

思ったよりもよく刈れ、思わず我を忘れて進んでしまいました。コオロギが長靴の足元から驚いてはねてきて、秋のすみきった空気の中で、土とふれあい、収穫の喜びを感じずにいられません。タンク内の種類別に初搾機に分けら

万善にあるライスセンターを訪ね、農協の栗林さんに、モミが玄米になるまでを説明して頂きました。ここでは、まず各農家から脱穀されたモミを荷受けホッパーに入れ、重さを測り、各銘柄ごとに乾燥機に入れます。乾燥機は、十トン入るものが五機と七・五トンのものが一機、そびえ立っています。この乾燥機で脱穀時のモミ水分量約二五％を半日で一五％にすることができるとのことです。そのモミを今度は、ブルタンクに移し、二時間ほど置きます。タンク

れ、モミが取り除かれます。ほぼ玄米状態になった米を今度は粒選別機で良い米と不良米に分けます。良い玄米は、計量器で三十キログラムごとに袋詰めされ出荷されます。この玄米を精米すると、家庭にある白米になります。不良米も、おかきや飼料用として出荷

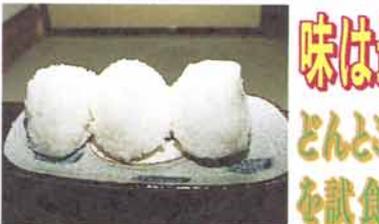


猪名川町作付品種 ベスト5 (単位:ヘクター)

①日 本 晴	96.57
②やまびかり	63.21
③コシヒカリ	33.59
④どんとこい	21.20
⑤も ち	8.20

猪名川産 「どんとこい」 「どんとこい」は、今年から作付けられた兵庫県奨励品種で、コシヒカリの品種改良のお米です。コシヒカリのおいしい味をそのまま受け継い、しかも兵庫県の土壌や天候にあった育てやすく改良された品種です。今秋、第一号の収穫となりました。この「どんとこい」は農協で買えますが、限定販売なので、JA猪名川(☎六六・〇〇二)へ問い合わせし、ぜひ一度食べてみてください。

「どんとこい」対「コシヒカリ」



味は最高 どんとこいを試食

「どんとこい」は温かくても冷えても、つやもよく、甘く、舌ざわりもよく、コシヒカリより粘りを感じました。私は「どんとこい」の方が、おいしいと感じました。



栗林さんから概要説明

さています。こうして、このセンターでは、一日くらいでモミから玄米の出荷までができます。ライスセンターを利用すること、今までは各農家で時間のかかっていた作業が、かなり短縮され軽減されているようです。

編集後記

小学校で一度限り経験のある稲刈りから、ウン十年経ち、今回の取材で、まず昔ながらの方法で鎌をにぎり稲を刈った。次に近代的なコンバインに乗り、いまだ昔の稲刈りも体験、ライスセンターに行き、農業の進歩を感じた一日でした。普通ではできない経験とお米に感謝!

おもしろ川柳

今回のテーマは「食欲」

台所 食欲の秋で 火の車 岩瀬 玲子(松尾倉)
 食欲と 乙女心は 反比例 山下 明子(松尾倉)
 また秋刀魚 松茸こいしと 腹の虫 中桐 徹(白金ノート代) お好み焼きに 花ける秋 和氣 初子(若葉)
 来月のテーマは「虫の声」です。応募方法は、十月十一日までにハガキで町長公室広報課係へ。